

海外短信



『タイの洪水被害について』

～ 日本シイエムケイ(株) ～



タイ洪水 街中の様子

CMKタイランドは、日本CMK(株)100%出資の現地子会社で、プリント配線板を製造販売しています。

サワディーピーマイカップ、明けましておめでとうございます。

今回は昨年のタイ洪水についてお話しします。

それは昨年10月4日、アユタヤ北部にある工業団地が浸水したとの情報から始まりました。

前日まで洪水に対する注意喚起の情報はなく、最初に被災した会社も前日までフル生産しており、4日出社すると周辺が水浸しで、みるみる内に水嵩が上がってきたそうです。そして8日、アユタヤ地区最大の工業団地が浸水し、あっという間に7つの工業団地に被害が広がりました。

通常、タイは10月から乾季に入り翌年4月までほとんど雨が降りません。そのため、乾季に備え雨期に水をたくさん貯めておく処置をとっています。今回の未曾有の洪水は、7月からの降水量が多かったことが主因ですが、貯水コントロールを誤ったことも否めないでしょう。防水堤や土嚢は、圧倒的な水量のまえに限界があることを露呈しました。今後は抜本的な治水対策が不可欠と

なります。

タイでは昔から洪水は珍しくなく、被害の大きさの割に、現地の人々はたくましく生活していました。生活するうえで特に困ったことは、店から飲料水が消えたことです。どこのスーパーもコーラはたくさん売っているのですが、飲料水が買えなくなりました。水道水も飲めますが、タイ人も含め飲み水はミネラルウォーターが一般的です。この状態は11月末まで続きました。

11月末に排水が完了し、今年に入ってから復旧に向けた活動が本格化しています。タイには4万人の日本人在留者がおり、タイGDPの40%を日系企業が占めています。日本はそれだけ深く根を下ろしており、アジア市場を考えても、日本にとって、タイは最重要な国です。どの国にもリスクはあります。今後のリスクマネジメントについて改めて考えさせられました。



現在の街の様子